

令和7年度 主要事業概要 ～ふるさと三陸の創造～

最後の工事箇所となった
尾崎白浜の沢(9)



令和元年東日本台風に係る砂防工事完成報告会
尾崎白浜の沢(9)地区砂防堰堤 岩手県 令和6年8月28日

令和元年東日本台風に係る
砂防工事完成報告会を開催！



地域経営推進費
現場見学を開催！



水門防潮堤等の見学ツアーによる
震災伝承活動を実施！



沿岸広域振興局土木部

沿岸広域振興局土木部主要事業概要 もくじ

1	管理施設の現況	3
2	組織、職員数及び予算概要	4～5
3	主要事業箇所図	6
4	主要事業	
(1)	【道路改良】(主)釜石遠野線 中村～青の木	7
(2)	【橋梁補修】(主)釜石港線大渡橋	8
(3)	【道路法面对策】(主)大槌小国線 金澤～土坂峠	9
(4)	【舗装補修】(主)釜石遠野線橋野町地区	10
(5)	【急傾斜地崩壊対策】本郷(2)	11
(6)	【砂防事業】川目の沢地区	12
(7)	【河川維持】河川海岸等維持修繕事業ほか 河道掘削(管内)	13
(8)	【令和6年台風第5号災害復旧事業】大槌川和野地区	14
(9)	【県営住宅(災害公営住宅含む)管理状況]	15～16
(10)	【地域経営推進費建設業若者入職促進事業】現場見学会ほか	17
5	災害からの復旧・復興の状況	
(1)	【東日本大震災津波】津波防災施設の復旧・整備	18
(2)	【東日本大震災津波】水門・陸閘自動閉鎖システムの整備	19～20
(3)	【東日本大震災津波】根浜海岸 砂浜再生	21
(4)	【東日本大震災津波】釜石港 ガントリークレーン	22
(5)	【東日本大震災津波】水門・防潮堤等の見学ツアー	23
(6)	【令和元年東日本台風】砂防堰堤などの土砂災害対策施設の整備	24

1 管理施設の現況

■ 道路現況

【数値：(岩手の道路現況)〔令和3年4月1日〕】

路線番号	路線名	実延長 (m)	改良延長 5.5m以上(m)	改良率	舗装率 (軽舗装含)
283	国道283号	22,517.1	20,764.0	93.1%	100.0%
	小計	22,517.1	20,764.0	92.2%	100.0%
4	主)釜石港線	1,366.0	1,366.0	100.0%	100.0%
26	主)大槌小国線	30,783.9	26,202.3	100.0%	100.0%
35	主)釜石遠野線	26,193.8	21,372.4	90.5%	100.0%
	小計	58,343.7	48,940.7	83.9%	100.0%
145	一)大槌停車場線	85.2	85.2	100.0%	100.0%
146	一)鶉住居停車場線	39.7	39.7	100.0%	100.0%
167	一)釜石住田線	8,406.8	619.2	17.4%	100.0%
193	一)唐丹日頃市線	12,398.0	1,885.3	20.1%	100.0%
231	一)吉里吉里釜石線	10,010.0	4,310.1	55.5%	100.0%
242	一)水海大渡線	7,223.1	3,306.5	51.0%	100.0%
249	一)桜峠平田線	18,084.5	5,055.7	62.2%	100.0%
250	一)吉浜上荒川線	8,525.0	1,443.3	57.4%	100.0%
280	一)大槌小釜線	1,876.8	1,876.8	100.0%	100.0%
	小計	66,649.1	18,621.8	27.9%	100.0%
	合計	147,509.9	88,326.5	59.9%	100.0%

主要地方道=(主) 一般県道=(一)

■ 河川現況

【数値：令和5年3月31日時点】

番号	河川名	指定延長 (Km)	流域面積 (Km ²)	計画高水流量 (m ³ /S)	比流量 (m ³ /S/Km ²)
3	甲子川	20.700	137.5	950	6.9
17	片岸川	3.819	29.6	300	10.1
18	鶉住居川	23.127	156.1	1,000	6.4
19	小釜川	11.782	62.7	420	6.7
20	大槌川	12.500	111.5	850	7.6
49	小川川	7.050	37.0	200	11.9
68	水海川	3.900	16.4	180	11.0
69	長内川	3.300	26.5	170	6.4
90	能舟木川	1.500	5.4	41	7.6
96	沢楡川	1.150	20.3	200	9.9
100	熊野川	8.000	30.6	290	9.5
101	北川目川	0.600	—	—	—
102	中川目川	1.300	—	—	—
	小計	98.728	633.6	—	—

■ 海岸現況

【数値：令和5年4月1日時点】

区分	地区海岸名	保全区域延長 (m)	保全区域面積 (m ²)	堤防高 (m)
国土交通 省所管海 岸	鶉住居地区海岸(片岸地先海岸)	820	57,443	T.P.+14.5
	鶉住居地区海岸(根浜地先海岸)	420	25,584	T.P.+5.6
	砺石地区海岸(水海地先海岸)	1,340	138,165	T.P.+12.0
	平田地区海岸(青出浜地先海岸)	120	1,400	—
	小白浜地区海岸	511.9	45,791	T.P.+14.5
	釜石港海岸(須賀地区海岸)	1,010	58,096	T.P.+6.1
	釜石港海岸(大平地区海岸)	867	36,513	T.P.+6.1
	釜石港海岸(湾口地区海岸)	2,362	1,100,238	—(湾防T.P.+6.0)
	釜石港海岸(泉地区海岸)	—	—	—

■ 釜石港(現有公共係留施設)

【数値：令和元年10月1日時点】

地区名	施設名	バース	延長(m)	対象船舶
須賀	防潮堤		994.6	
	岸壁(-11m)	1	190.0	18,000D/W
	岸壁(-7.5m)	1	130.0	5,000D/W
	耐震強化岸壁(-7.5m)	1	130.0	5,000D/W
	岸壁(-4.5m)	4	240.0	1,000D/W
	物揚場(-4.0m)		718.5	
	物揚場(-3.0m)		91.5	
	物揚場(-2.0m)		349.5	
大平	物揚場(-1.5m)		100.0	
	防潮堤		852.7	

■ 砂防指定地

釜石市 87地区 大槌町24地区 合計111地区 【数値：令和7年3月31日時点】

■ 急傾斜地崩壊危険区域

釜石市 71地区 大槌町13地区 合計84地区 【数値：令和7年3月31日時点】

■ 日向ダム

【出典：「いわてのダム(平成17年3月)岩手県」】

名称	形式	堤高	堤頂長	堤体積	設計洪水流量
日向ダム	重力式コンクリートダム	56.5m	290m	241,150m ³	630m ³ /sec
		流域面積	湛水面積	総貯水容量	
		22.0km ²	0.29km ²	5,700,000m ³	

■ 県営住宅

13団地 828戸 【数値：令和7年3月31日時点】

2 組織、職員数及び予算概要

① 組織

調整課	土木企画、盛土規制法、建設リサイクル
管理課	庶務、委託契約、建設業許可、道路・河川・港湾の占用許可
用地課	土地の取得・補償
道路整備課	道路建設工事、道路維持・修繕
河川港湾課	河川・日向ダム・砂防・急傾斜、土砂災害防止法、港湾維持修繕、 海岸・水門陸閘
建築指導課	建築物の審査・検査・指導・取締り

② 職員数 (令和7年4月1日時点)

所属等	職員数
部長	1名
調整課	4名
管理課	6名
用地課	3名
道路整備課	5名
河川港湾課	10名
建築指導課	2名
会計年度任用職員	8名
計	39名

③ 予算概要 (百万円)

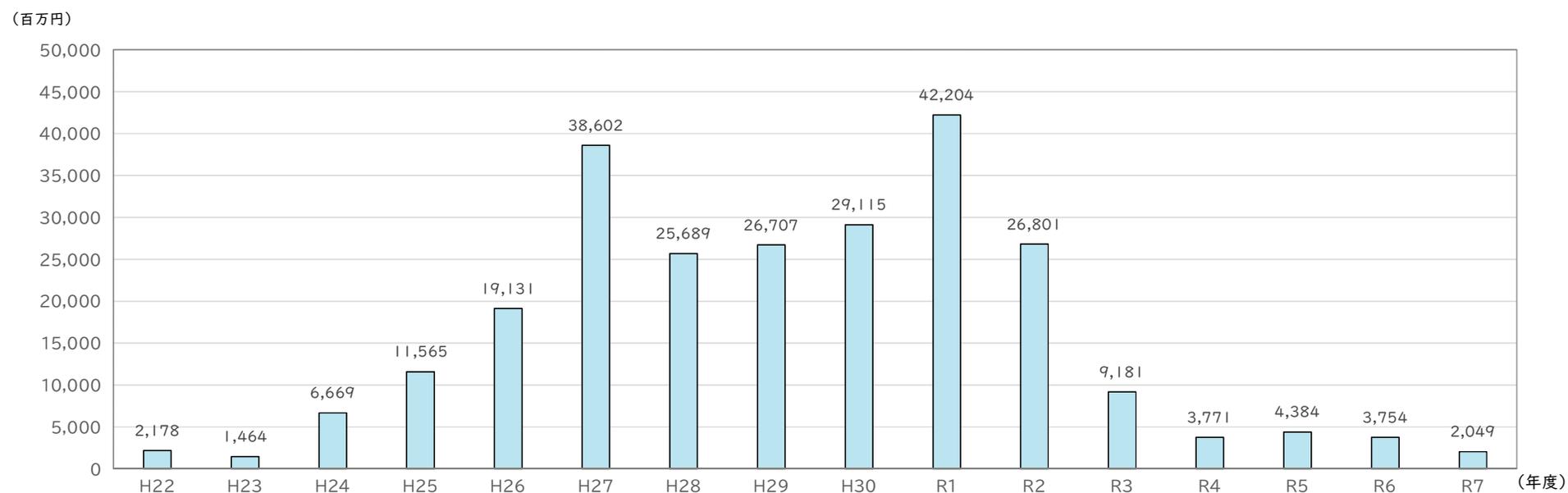
予算	R7年度 当初	R6年度 当初	増減	前年比
公共事業 (うち災害復旧費)	2,049 (0)	3,754 (0)	▲1,705	0.55

④ 予算額の推移

(百万円)

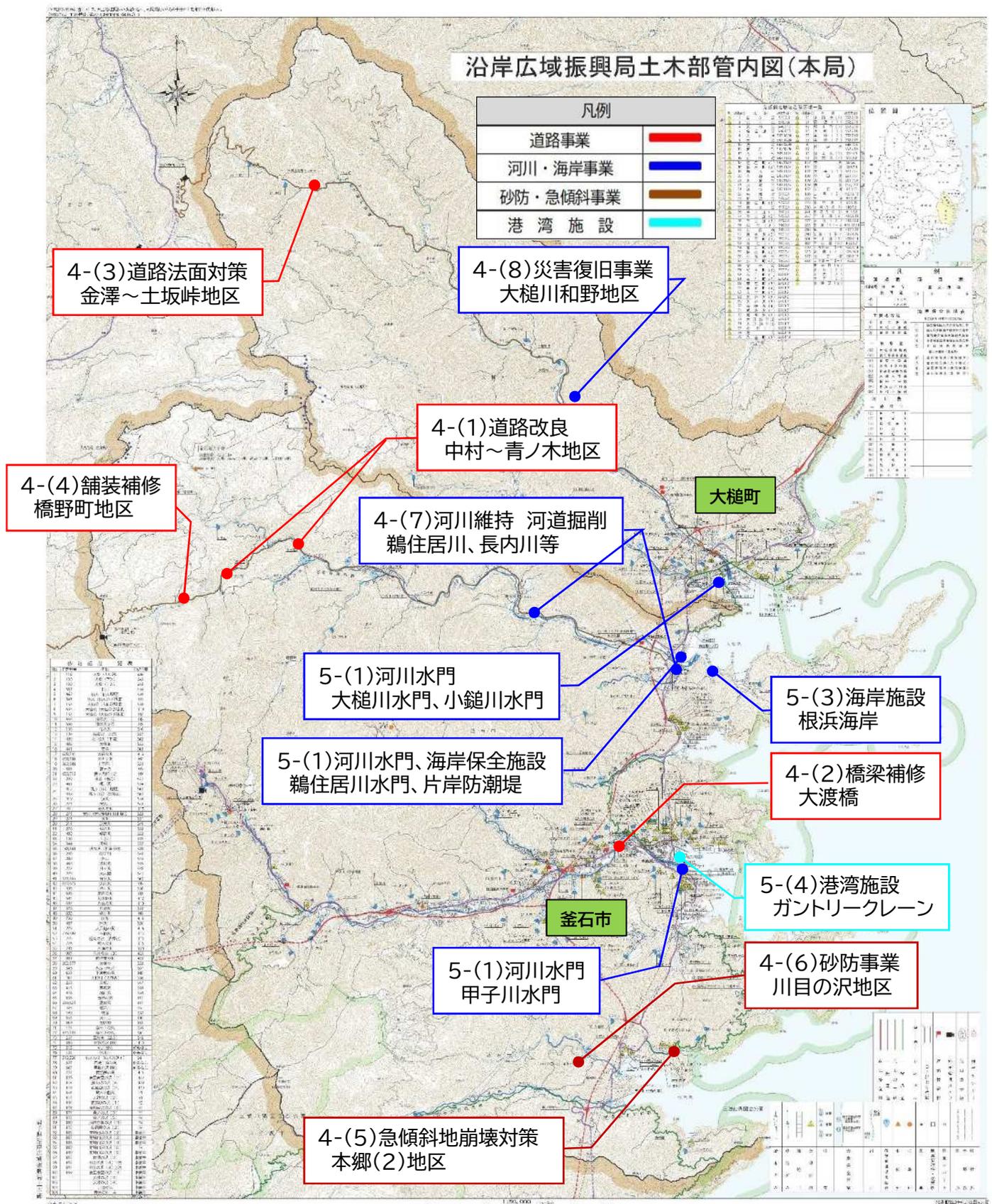
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
予算額	2,178	1,464	6,669	11,565	19,131	38,602	25,689	26,707	29,115	42,204	26,801	9,181	3,771	4,384	3,754	2,049

※ 当初予算ベース（当初予算+前年度からの繰越（事故繰越含む））



沿岸広域振興局土木部（釜石管内）公共事業予算額の推移（通常事業+災害）

3 主要事業箇所図



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。
(承認番号 平30橋保、第72-GISMAP41441号)」

※ 4(9)(10)、5-(2) (5) (6) の位置図は別紙記載

4-(1) 道路改良 (主) 釜石遠野線 中村～青ノ木 (なかむら～あおのき) 地区

○事業目的

主要地方道釜石遠野線は、釜石市鵜住居町を起点とし遠野市青笹町に至る路線であり、釜石地域と遠野地域を結ぶ広域的な路線である。

沿線の釜石市橋野町には、世界文化遺産「橋野鉄鉱山」があり、本路線は主要なアクセスルートとなっているほか、沿線地域住民の通勤、通学、通院等の生活道路としても利用されている。

本路線の中村～青ノ木地区の一部区間は、道路の幅が狭く、2車線が確保されていないため、大型車同士のすれ違いが困難であり、通行の支障となっている。

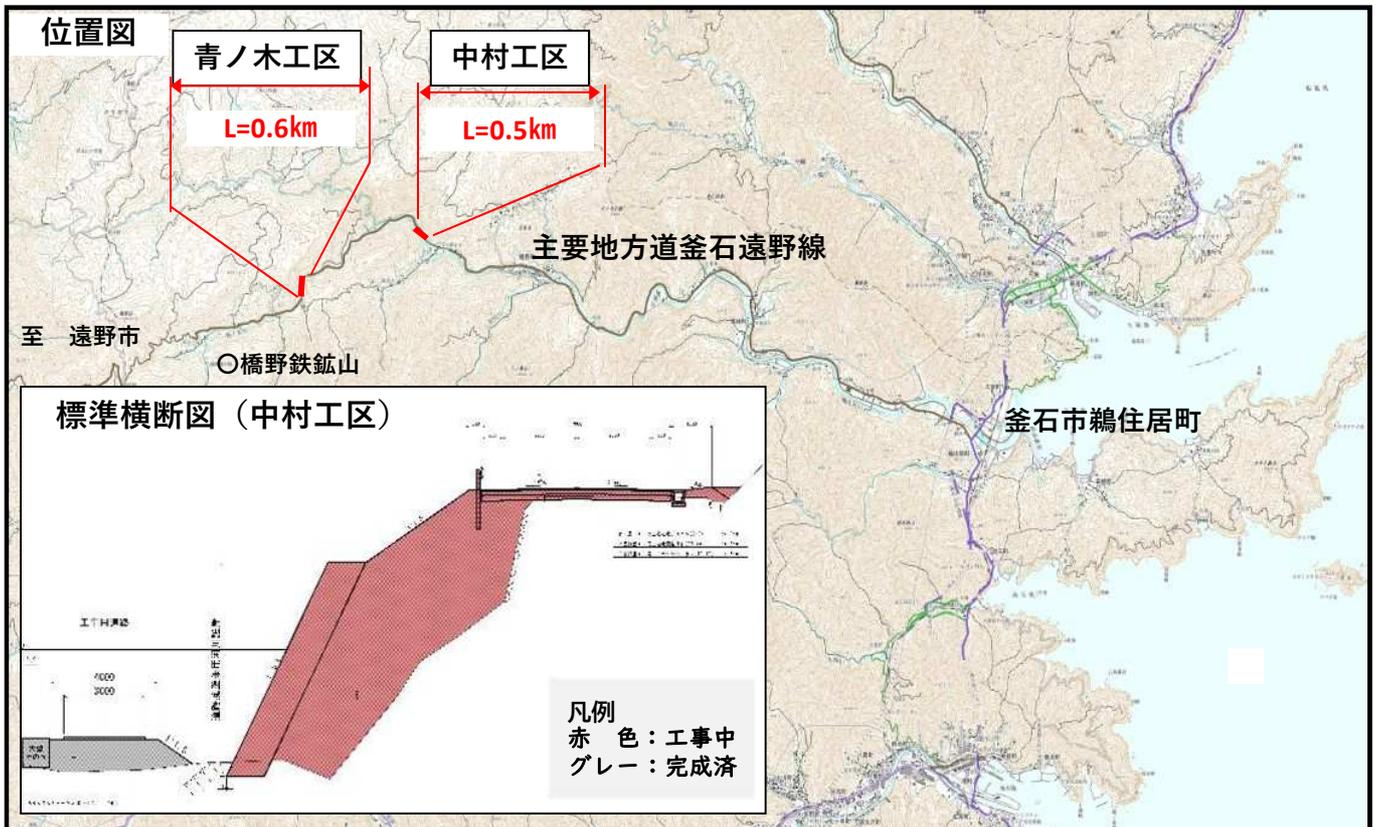
本事業は、当該区間を**2車線に整備する**ことにより、通行の安全を確保し、広域観光ルートへのアクセス改善を図るものである。

○設計条件

- ・道路区分 第3種第4級
- ・設計速度 $V = 40 \text{ km/h}$

○計画概要

- ・施工延長 1.1km
(中村工区0.5km、青ノ木工区0.6km)
- ・道路幅員 $W = 5.5 (7.0) \text{ m}$
- ・施工期間 令和2年度～令和7年度(予定)



施工状況 (中村工区)



4-(2) 橋梁補修 (主) 釜石港線 大渡橋 (おおわたりはし)

○事業目的

主要地方道釜石港線は、重要港湾釜石港と国道283号を結ぶ幹線道路であり、「岩手県地域防災計画」において緊急輸送道路に位置づけられているとともに、釜石市の中心市街地の骨格を形成する重要な路線である。

本路線の大渡橋は、完成から約20年が経過し、橋梁端部の伸縮装置の損傷や橋桁の鋼材の腐食など老朽化の進行が確認された。将来、大規模な損傷に至る前に予防保全的に補修を実施することで、橋梁の長寿命化を図り、安全な交通を確保するものである。

○橋梁諸元

- ・橋長 108.0m
- ・幅員 15.3～22.1m
- ・竣工 2005年(平成17年)※20年経過
- ・上部工 3径間連続合成鈹桁橋(鋼床版)
- ・下部工 逆T式橋台、壁式橋脚
- ・その他 緊急輸送道路(1次)指定

○工事概要

- ・伸縮継手工 1式
- ・橋梁塗装工 1式
- ・支承防錆工 1式



大渡橋全景写真



鋼材の腐食状況 (橋の下)



4-(3) 道路法面对策 (主) 大槌小国線 金澤～土坂峠 (かなざわ～つちさかとうげ)

○事業目的

主要地方道大槌小国線は、大槌町安渡を起点とし、土坂峠を經由して宮古市小国に至る広域的な路線であり、「岩手県地域防災計画」において緊急輸送道路に位置づけられているほか、沿線地域住民の通勤、通学路、通院等の生活道路としても利用されている。

本路線の大槌町内は、主に山地に挟まれ蛇行する大槌川沿いに路線が通っており、**道路の山側には急な斜面や崖が多く存在する。**

これらの斜面等からは、**多くの落石が確認されている**ほか、斜面上には道路へ落下する恐れのある**露岩や浮石**（むき出しの大きな岩やぐらぐらして動きやすい石）等が**多数存在している**ため、**落石対策を目的として防護工や予防工を行い、安全な交通の確保を図るものである。**

○計画概要

- ・ 計画延長 750m
- ・ 道路幅員 5.5 (8.0) m
- ・ 事業期間 平成31年度～

○施工概要 (令和7年度)

【A050工区】

- ・ 施工延長 95m
- ・ 高エネルギー吸収型落石防護柵工 75m

位置図



路線の現況

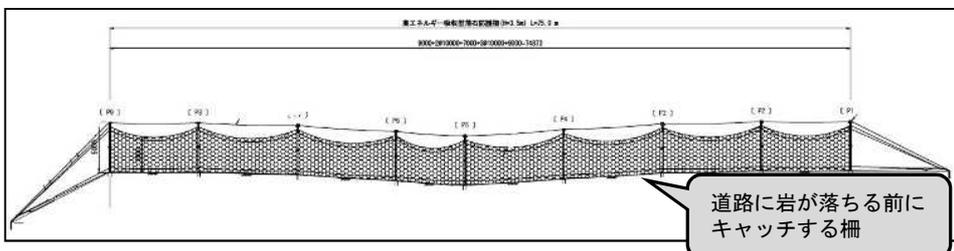


対策が必要な浮石の状況

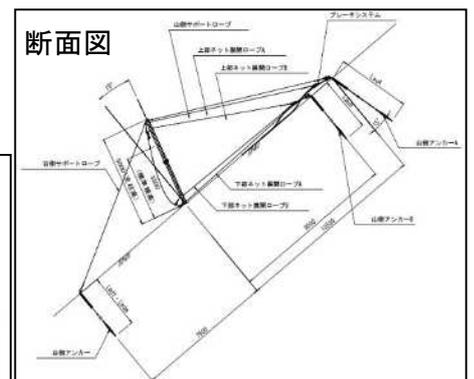


施工概要図 (A050工区)

正面図



断面図



4-(4) 舗装補修 (主) 釜石遠野線 橋野町 (はしのちょう) 地区

○事業目的

主要地方道釜石遠野線は、釜石市鶴住居町を起点とし遠野市青笹町に至る路線であり、釜石地域と遠野地域を結ぶ広域的な路線である。

沿線の釜石市橋野町には、世界文化遺産「橋野鉄鉱山」があり、本路線は主要なアクセスルートとなっているほか、沿線地域住民の通勤、通学、通院等の生活道路としても利用されている。

本路線の橋野町地区のアスファルト舗装は、経年による老朽化や大型車の通行により、路面にひび割れやわだちが発生しているため、舗装補修を実施し、安全で快適な通行を確保するものである。

○計画概要

- ・計画延長 1.0km
- ・道路幅員 5.5 (7.0) m
- ・事業期間 令和6年度～令和7年度

○施工概要 (令和7年度)

- ・施工延長 0.5km
- ・路面切削工 1式
- ・アスファルト舗装工 1式



路面の状況



施工状況 (令和6年度)



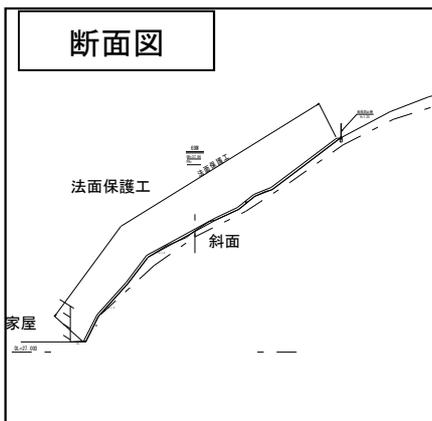
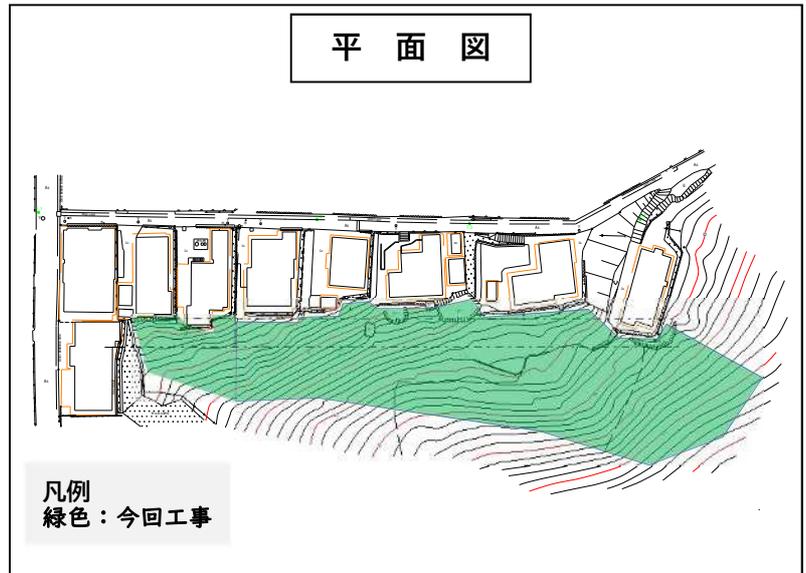
4-(5) 急傾斜地崩壊対策事業 本郷（2）地区

○事業目的

当該箇所は、昭和52年7月に急傾斜地崩壊危険区域に指定され、昭和57年から59年にかけて緊急性の高い区間の施設整備が行われたが、令和元年10月の台風第19号に伴う総雨量300mmを越える豪雨により、**施設未整備の斜面の表層崩壊が発生した。**
このため、早急に**急傾斜地崩壊対策施設を整備し、地域の安全の確保を図るもの。**

○計画概要

保全対象：人家27戸
事業費：約2億円
事業期間：令和5年度～令和9年度
工事概要：全体延長 L=115m
法面保護工 A=3,250m²



4-(6) 砂防事業 川目の沢地区

○事業目的

川目の沢は、2級河川片岸川水系支川の土石流危険渓流であり、令和元年10月台風第19号において土砂流出が発生するなど、溪岸浸食が進行し、溪床に不安定土砂が堆積している状況である。そのため、大雨等でさらに土砂流出が発生する危険がある。

保全対象は釜石市の地域防災計画に位置付けられている避難所、人家14戸及び市道がある。

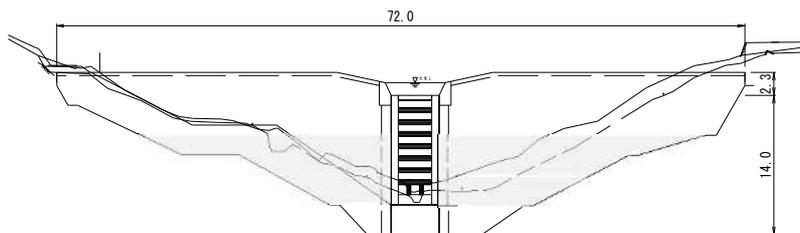
これにより、当該箇所では土砂災害が発生した際には甚大な被害発生のおそれがあるため、早急に砂防施設を整備し、地域住民の安全確保を図るもの。

○計画概要

- 保全対象 : 避難所、人家14戸、市道285m
- 全体事業費 : 約3.5億円
- 事業期間 : 令和3年度～令和7年度
- 工事概要 : 砂防堰堤 1基



断面図 (Cross-section Diagram)



航空写真 (Aerial Photo)



4-(7) 河川維持 河川海岸等維持修繕事業ほか 河道掘削

県では、河川の適切な維持を図るため、河道掘削や立ち木伐採について、着実に取り組んでいる。

河道掘削や立ち木伐採については、

- ① 近年出水箇所であつた箇所
 - ② 河道断面が不足している箇所であつた箇所
 - ③ 釜石市及び大槌町から河道掘削や立ち木伐採要望があつた箇所
 - ④ その他必要と認められる箇所
- など、優先順位を勘案し工事を推進している。

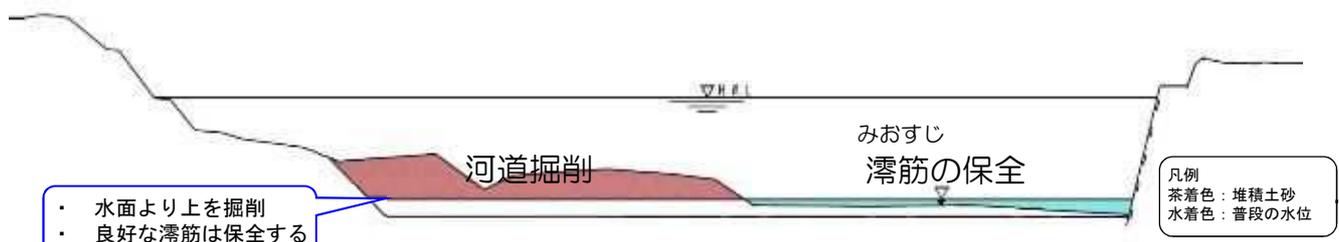
○対応状況写真（鶴住居川砂子畑地区）



○対応状況写真（長内川長内橋上流）



○河道掘削のイメージ



4-(8) 令和6年台風第5号災害復旧事業 大槌川和野地区

○事業目的

令和6年8月10日～13日の台風第5号による出水で、二級河川大槌川和野地区の右岸護岸が被災した。

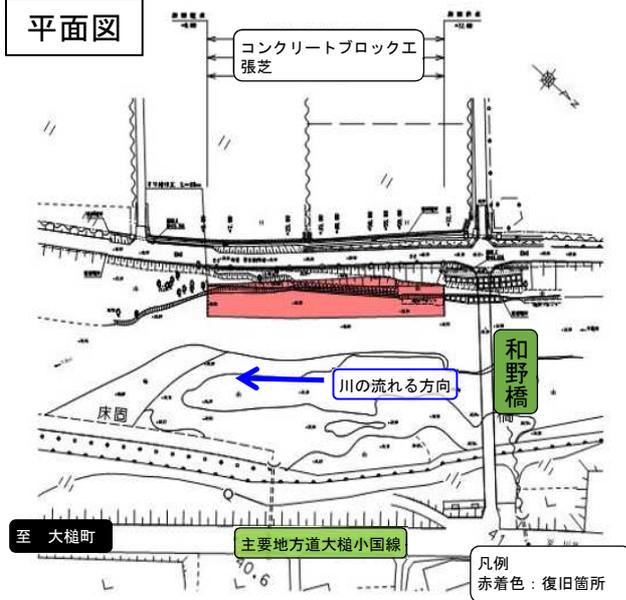
被災箇所は川が曲がっている場所にあり、台風5号による増水が警戒水位を超えたことで、水流の勢いが強くなり、護岸が崩れたところ。

そのため、被災箇所にコンクリートブロック等を設置し、河川の適切な維持管理を行うため、災害復旧工事を行うもの。

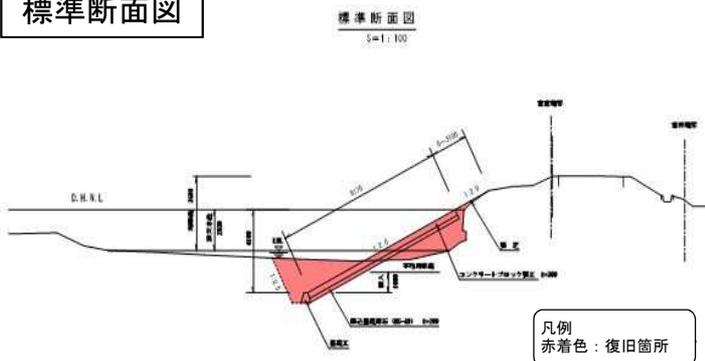
○計画概要

- 事業期間 : 令和6年度～令和7年度
- 工事概要 : 復旧延長 72m
 コンクリートブロック工 658.0m²
 張芝 120.0m²

平面図



標準断面図



4- (9) 県営住宅（災害公営含む）管理状況

○県営住宅（公営住宅及び災害公営住宅）の目的

- **公営住宅**：所得が一定の基準以下の住宅に困っている方に賃貸し、国民生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的に整備
- **災害公営住宅**：東日本大震災津波により住宅を失った被災者の居住の安定を目的に整備

○概要

震災前は3団地297戸だった管内の公営住宅は、震災後に建設された災害公営住宅10団地531戸が平成30年度までに全戸が完成し、合わせて13団地828戸（戸数約2.8倍）となった。

この内、釜石市が9団地608戸、大槌町が4団地220戸となっている。

なお、被災者用に整備した災害公営住宅に空き室が生じた場合は、被災者用に一定の戸数を確保した上で、被災者以外も募集している。

種別	所在地	団地名	棟数	戸数	
一般公営	釜石市	大平	1	58	
		日向	5	95	
		上平田	8	144	
一般公営計		3団地	14	297	
災害公営	釜石市	平田	1	126	
		片岸	1	17	
		松原	2	60	
		嬉石第1	1	52	
		嬉石第2	1	32	
		両石	1	24	
	釜石市計		6団地	7	311
	大槌町	大槌町	屋敷前	3	151
			大町	1	23
			安渡	1	23
			上町	1	23
大槌町計		4団地	6	220	
災害公営計		10団地	13	531	
合計		13団地	27	828	

上町アパート 23戸 (災害)
〔平成31年3月 完成〕



屋敷前アパート 151戸 (災害)
〔平成27年10月 完成〕



凡例 ● 災害公営 ● 一般公営

- 50戸未満
- 50戸以上100戸未満
- 100戸以上

大町アパート 23戸 (災害)
〔平成30年9月 完成〕



日向アパート 95戸 (一般)
〔昭和51年 完成〕



安渡アパート 23戸 (災害)
〔平成30年12月 完成〕



両石アパート 24戸 (災害)
〔平成30年4月 完成〕



片岸アパート 17戸 (災害)
〔平成29年2月 完成〕



松原アパート 60戸 (災害)
〔平成29年3月 完成〕



釜石市役所

嬉石第2アパート32戸 (災害)
〔平成29年7月 完成〕



嬉石第1アパート 52戸 (災害)
〔平成29年7月 完成〕



大平アパート 58戸 (一般)
〔平成16年 完成〕



平田アパート 126戸 (災害)
〔平成26年1月 完成〕



上平田アパート 144戸 (一般)
〔昭和57年 完成〕



2DKタイプ (平田アパート)

4-(10) 地域経営推進費 建設業若者入職促進事業 現場見学会ほか

人口減少による少子高齢化社会により、建設業者の担い手が不足が深刻化している。建設業の分野においては、他業種に比べて高齢化割合が高く、若者の割合が低く、担い手確保が課題となっている。

建設業に対するイメージは、地域の安全・安心を支える大切な仕事という認識が多い一方、きつい、危険、休みがない等のイメージを持っている。

そこで、建設業への興味を持ってもらうため、令和3～6年度に中・高等学校を対象に現場見学会等を開催しており、令和7年度は6校開催予定である。

現場見学会は2部構成で、①模型実習・座学、②現場見学・体験学習を実施し、多くの参加者が建設業に建設業の魅力を知ってもらうきっかけとなっている。

模型実習・座学 (学校内)



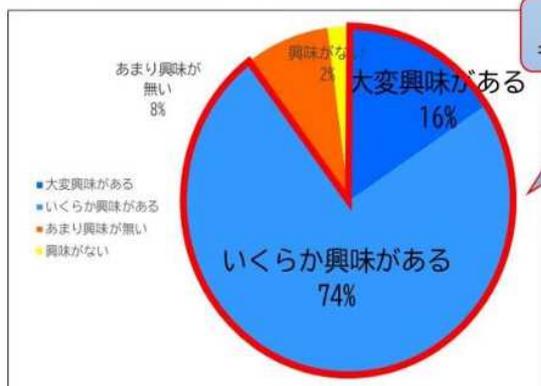
現場見学・体験学習 (工事現場)



受講後のアンケート結果 (令和6年度)

(調査対象) 参加した4校96名 ※ 釜石地区のみ

Q. 今日一日の体験を通して、建設業に興味を持ちましたか？



9割の参加者が建設業に興味を持った

開催実績 (令和4年度～)

合計	小学校	中学校	高校
11回	2回	6回	3回
合計	R4	R5	R6
314名	30名	116名	168名

※沿岸土木部開催分で地経費以外も含む

詳しい開催実績はホームページへ



沿岸広域振興局土木部ホームページ



建設業に対する興味関心を喚起することができた

東日本大震災津波により防潮堤等の津波防災施設は、破堤や施設の沈下等の被害が生じた。

被害を受けた津波防災施設については、背後の復興まちづくりと一体となって復旧・整備を進め、甲子川、鵜住居川、大槌川及び小鎚川は、令和3年3月に完成にした。

○完成した津波防災施設



【参考】堤防の高さの設定

防潮堤や水門等の津波防災施設の高さは、以下の考え方により設定している。

- ① 数十年～百数十年の頻度で発生している津波を設計対象津波群として設定。一連の海岸や湾ごとに
 - ・ 過去の津波の痕跡高さの記録の整理
(例：慶長地震、明治三陸地震、昭和三陸地震、チリ地震、2011年東北地方太平洋沖地震 等)
 - ・ 発生の可能性が高い地震等の津波シミュレーションの実施
(例：想定宮城県沖地震 等)
- ② 設計対象津波群を対象に、海岸堤防によるせり上がりを考慮して設計津波の水位を設定。
- ③ この水位を前提に、海岸の利用や環境、景観、経済性、維持管理の容易性などを総合的に考慮して堤防の高さを設定（所管省庁間や隣接海岸間で整合性を確保）。

各施設の堤防の高さ

	甲子川水門	鵜住居川水門 片岸海岸防潮堤	小鎚川水門	大槌川水門
堤防の高さ	T. P. +6. 1m	T. P. +14. 5m	T. P. +14. 5m	T. P. +14. 5m

※ T. P. : Tokyo Peil (東京湾平均海面) の略で、標高の基準となる海水面の高さ。

東日本大震災津波において、水門・陸閘の閉鎖作業に関わり多くの消防団員が犠牲となった事実を踏まえ、県では操作員の安全確保や津波から県民の生命と財産を守るため、操作の遠隔化、通信・電源の多重化を図り、衛星回線を活用し水門・陸閘の閉鎖などを自動で行う「水門・陸閘自動閉鎖システム」の整備を進めてきた。

当システムは、国が発表する津波注意報等（Jアラート）の受信を契機に、県内の各水門や陸閘に閉鎖の一斉命令を送信し、水門・陸閘の閉鎖や閉鎖にかかる安全警報等が自動で開始されるもの。

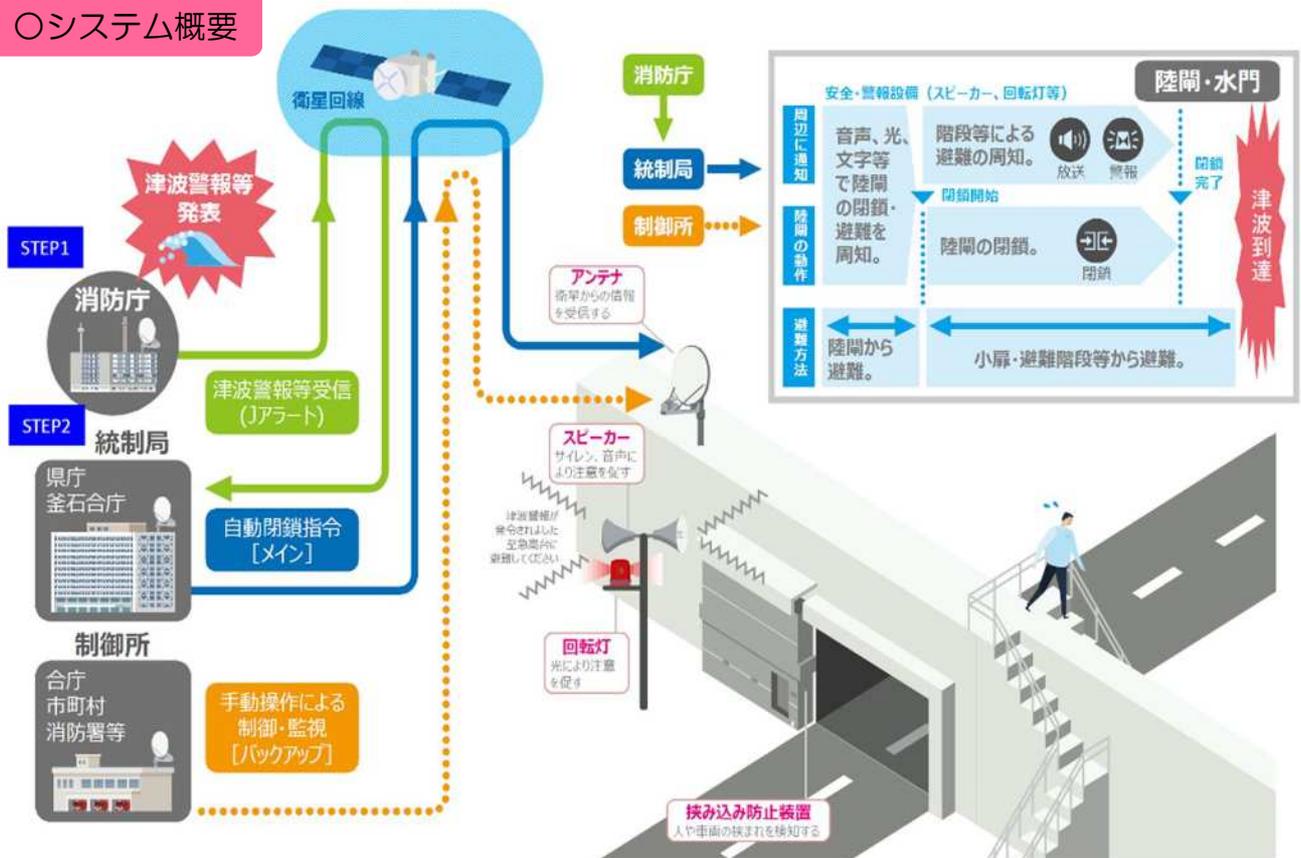
沿岸広域振興局土木部管内の水門・陸閘のうち、フラップゲートなどの操作不要のものを除く25箇所が自動閉鎖の対象となり、令和3年度末までに運用を開始している。

令和4年1月15日に発生したトンガ諸島付近の海底火山噴火の影響により、翌16日に津波注意報が発表されたが、管内の対象水門・陸閘はすべて閉鎖したことを確認している。

○事業概要

- ・自動閉鎖システム対象箇所 214箇所（うち、釜石市内23箇所＋大槌町内2箇所＝25箇所）
- ・事業費 80億円（うち、沿岸広域振興局土木部管内10億円）
- ・事業年度 平成27年度～令和3年度（管内）

○システム概要



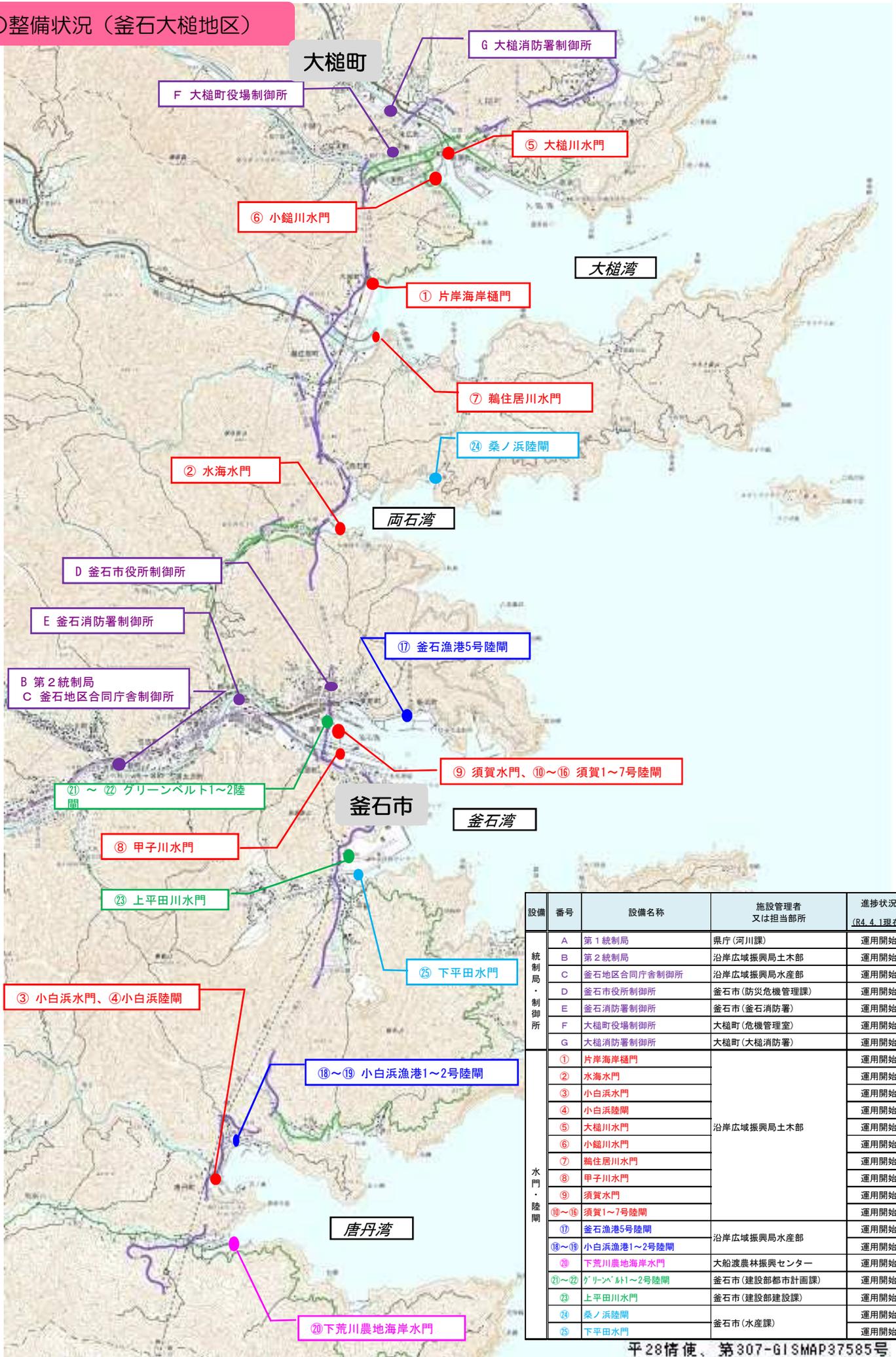
③ 小白浜水門



⑬ 須賀4号陸閘



○整備状況（釜石大槌地区）



設備	番号	設備名称	施設管理者 又は担当部所	進捗状況 (R4.4.1現在)	
統制局・制御所	A	第1統制局	県庁(河川課)	運用開始	
	B	第2統制局	沿岸広域振興局土木部	運用開始	
	C	釜石地区合同庁舎制御所	沿岸広域振興局水産部	運用開始	
	D	釜石市役所制御所	釜石市(防災危機管理課)	運用開始	
	E	釜石消防署制御所	釜石市(釜石消防署)	運用開始	
	F	大槌町役場制御所	大槌町(危機管理室)	運用開始	
	G	大槌消防署制御所	大槌町(大槌消防署)	運用開始	
水門・陸閘	①	片岸海岸樋門	沿岸広域振興局土木部	運用開始	
	②	水海水門		運用開始	
	③	小白浜水門		運用開始	
	④	小白浜陸閘		運用開始	
	⑤	大槌川水門		運用開始	
	⑥	小槌川水門		運用開始	
	⑦	鶴住居川水門		運用開始	
	⑧	甲子川水門		運用開始	
	⑨	須賀水門		運用開始	
	⑩~⑬	須賀1~7号陸閘		運用開始	
	⑰	釜石漁港5号陸閘		沿岸広域振興局水産部	運用開始
	⑱~⑲	小白浜漁港1~2号陸閘			運用開始
	⑳	下荒川農地海岸水門		大船渡農林振興センター	運用開始
	㉑~㉒	グリーンベルト1~2号陸閘		釜石市(建設部都市計画課)	運用開始
	㉓	上平田川水門		釜石市(建設部建設課)	運用開始
㉔	桑ノ浜陸閘	釜石市(水産課)	運用開始		
㉕	下平田水門		運用開始		

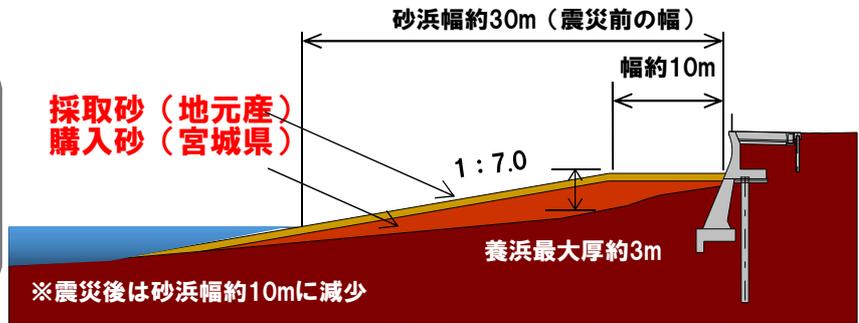
平28情使、第307-G1SMAP37585号

東日本大震災津波により消失した根浜海岸の砂浜について、平成29年度に人工的な砂浜再生が技術的に可能か検討を実施し、この結果「養浜が定着することが可能」と判断したことから、平成30年度から工事を進め、令和2年8月に完成した。

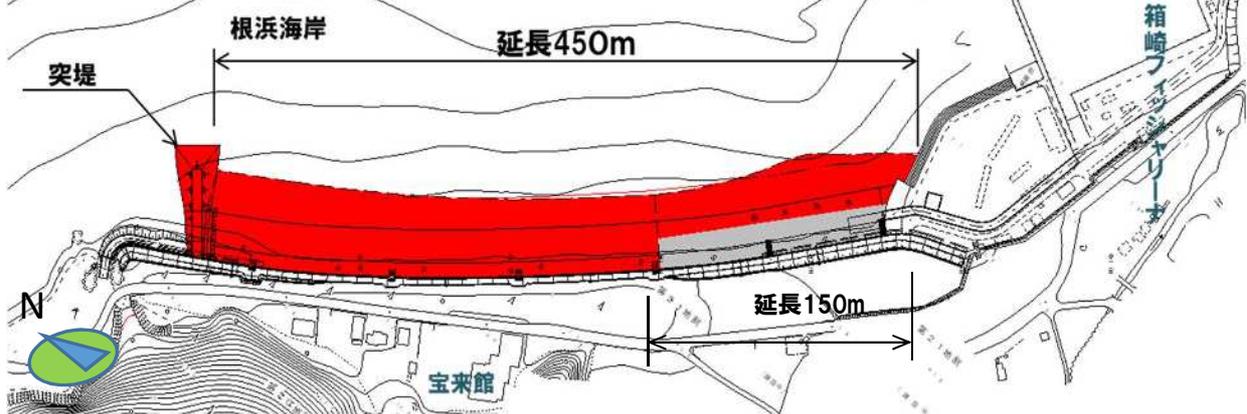
これらの検討及び事業実施にあたっては、「根浜海岸復興養浜技術検討委員会」や「根浜海岸砂浜再生懇談会」でのご助言・ご意見を頂いたもの。

○海岸施設の概要

- ・ 事業概要
 - 養浜整備 450m
 - 突堤 1基
 - 養浜量 約45,000m³
- ・ 事業費 約10億円



- その1工事 (H30-R1)
 - 砂浜延長 150m
 - 養浜量 1.4万m³
 - 突堤 1基
- その2工事 (R1-2)
 - 砂浜延長 450m
 - 養浜量 3.1万m³
 - 突堤復旧 1基



釜石港では、東日本大震災津波後の平成23年7月に国際フィーダー定期航路が就航し、コンテナ貨物取扱量が順調に伸びていたことや運航会社から外貿定期コンテナ航路の開設計画が示されたことから、ガントリークレーンの導入が喫緊の課題となっていた。

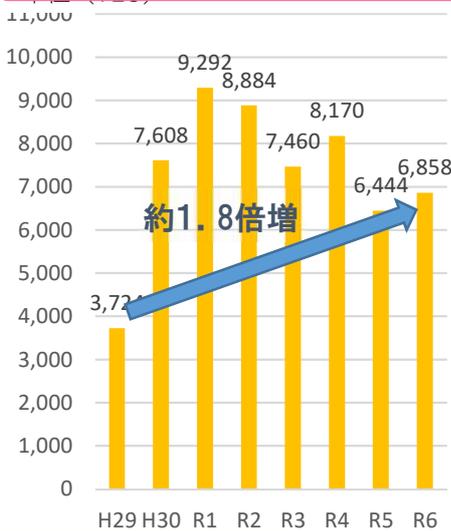
そうした中で、大阪府から大船渡土木センターに派遣されていた応援職員の橋渡しによって「震災復興のために」と大阪府からのガントリークレーンの無償譲渡が実現し、平成29年9月に供用が開始された。

ガントリークレーンの導入によって、大型コンテナ船への荷役対応が可能となっており、本県の物流の更なる発展が見込まれる。



- ※参考 平成23年 国際フィーダーコンテナ定期航路開設 (7月19日)
- 平成29年 県営ガントリークレーン供用開始 (9月23日)
- 外貿コンテナ定期航路開設 (11月17日)
- 平成31年 東北横断自動車道釜石秋田線(釜石~花巻間)全線開通 (3月9日)
- 令和元年 動物検疫港指定 (8月26日)
- 令和2年 ポート・オブ・ザ・イヤー2019を受賞 (1月22日)
- 令和6年 国際フィーダーコンテナ定期航路2便目の新規開設 (6月22日)

○釜石港コンテナ取扱量



高さ(ブームアップ時): 約77m
 高さ(ブームダウン時): 約56m
 自重: 約557t
 吊上荷重: 44.5t
 定格荷重: 38.0t/30.5t(コンテナ)

ガントリークレーン



釜石港の航空写真



釜石市は、市内で最も大きな被害を生じた鵜住居地区防災センター跡地に「いのちをつなぐ未来館」を整備し、震災の出来事や教訓を伝え、未来の命を守るための防災学習に取り組んでいる。

当該施設の指定管理者である株式会社かまいしDMCは、館内無料ガイドのほか、有料プログラムとして現地体験プログラム（避難路追体験、スタジアム見学、水門・防潮堤見学&震災伝承語り部）を用意して受け付けている。

そのうち水門・防潮堤見学においては、鵜住居川水門及び片岸防潮堤の管理者である沿岸広域振興局土木部が案内役を協働し、これまでの復旧・復興の取組や避難行動の必要性を説明して、多重防災の重要性を広報している。

通常、施設管理者の実施するインフラ見学は無料で実施されることが一般的であるが、このプログラムではかまいしDMCが収入を得て実施しており、この地域における新たなインフラツーリズムのかたちとして捉えている。土木部ではプログラム参加者が少人数であっても積極的に施設案内を引き受けており、これらの取組は震災伝承活動を可能なものとする新たな仕組みと

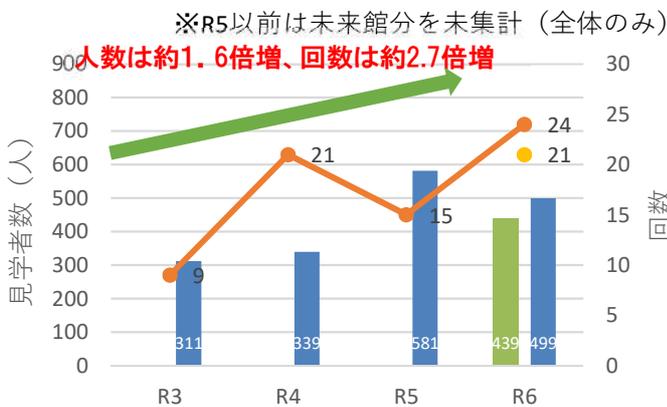
考え、協働の取組を継続していく。

見学を希望する方は下記ホームページを参照。
<https://unosumai-tomосу.jp/tsunami-memorial-hall/>



○鵜住居川水門、片岸防潮堤の施設見学

○位置図



○施設見学状況



4-(8) 砂防堰堤などの土砂災害対策施設の整備

令和元年東日本台風

令和元年10月の台風第19号により土石流が発生し、人家等への被害が大きかった13の溪流において、砂防堰堤などの土砂災害対策施設を整備し、令和6年度に完成しました。

- 災害関連緊急砂防事業・砂防激甚災害対策特別緊急事業（令和4年度完成）
 - 仮宿東の沢(2)、桑ノ浜沢(3)、桑ノ浜沢(5)、尾崎白浜の沢(6)、尾崎白浜の沢(11)
- 砂防激甚災害対策特別緊急事業
 - 尾崎白浜の沢(8)（令和4年度完成）
 - 尾崎白浜の沢(4)、吉里吉里の沢(3)、平田の沢(4)（令和5年度完成）
 - 尾崎白浜の沢(9)、佐須の沢(3)（令和6年度完成）
- 通常砂防事業（令和5年度完成）
 - 尾崎白浜の沢(2)、尾崎白浜の沢(3)



地理院タイルを加工して作成

令和元年東日本台風に係る砂防事業が完了したところから、令和6年8月に、地域の皆様にこれまでの事業報告などを行うことを目的とした**完成報告会**を開催しました。
 また、令和元年東日本台風で発生した土砂災害に対する**発災から事業完了までの流れ**を、記録誌としてとりまとめ岩手県のホームページで公開しています。

砂防工事完成報告会の開催について

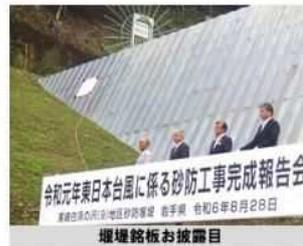
令和元年東日本台風に係る砂防工事完成報告会について 沿岸広域振興局 土木部

実施日：令和6年8月28日（水）
 参加者：地域住民及び施工者（約30名）
 場所：尾崎白浜の沢（9）地区砂防堰堤築造工事（釜石市平田地内）

令和元年東日本台風に係る砂防事業で本県最後の工事箇所であった尾崎白浜の沢（9）砂防堰堤で、地域の皆様に対しこれまでの事業報告などを行うことを目的とした完成報告会を開催しました。



記念撮影



堰堤銘板お披露目



事業報告



地域防災講座

砂防事業対応記録誌

令和元年東日本台風における
砂防事業対応記録誌



令和7年3月
沿岸広域振興局土木部

砂防事業対応記録誌は
こちらから



目次

01 はじめに	
これまでの主な歩み	4
令和元年東日本台風における砂防事業対応年表	7
02 気象概要	8
03 土砂災害発生状況	9
土砂災害発生状況（全県）	9
土砂災害発生状況（沿岸土木部管内）	10
土砂災害発生状況（宮古土木センター管内）	23
土砂災害発生状況（岩泉土木センター管内）	26
施設効果事例	30
04 発災直後の取組み	32
土砂災害対応状況	32
土砂災害調査	34
05 土砂災害対策事業	36
岩手県での事業実施計画	36
沿岸土木部での施設整備状況位置図	38
箇所別復旧状況（沿岸土木部管内）	40
宮古土木センターでの施設整備状況位置図	54
箇所別復旧状況（宮古土木センター管内）	55
岩泉土木センターでの施設整備状況位置図	58
箇所別復旧状況（岩泉土木センター管内）	60
その他施設整備状況位置図	64
箇所別復旧状況（東北土木部管内）	65
06 地域に対するソフト対策等の取組み	66

広域振興局土木部等の所管区域と所在地一覧

